滑川市教育センター便り

発行 令和７年 10 月 16 日
第 12 号

第５回　若手教員自主研修会

８月８日（金）に、若手教員自主研修会の第５回目を開催しました。今回は滑川市立北加積小学校の清河良美先生を講師にお迎えし、「絵の具を使った絵画指導の基本」をテーマにご指導をいただきました。内容を一部紹介します。

【講話】

【実技】

〇図画工作科の目標と配慮

図画工作科では、「創造」が重視されてします。暴力的・流血的な表現など、人が不快に感じる可能性のある内容は避けるよう指導し、創造的な活動に集中できるよう導く大切さを教えていただきました。

〇表現の尊重と関わり方

作品や活動は、表現した人そのもの。作品を笑ったり否定したりすることは、その子自身を傷つけることにもつながるため、十分な配慮が必要であること、また、自分自身の作品も大切に扱えるよう促す必要があります。例えば、ナイフなどを描く子供に対しても、頭ごなしに否定するのではなく、「どうしてこのような表し方にしたのかな？」などと問いかけながら、一緒に作品と向き合う教師の姿勢についてご紹介いただきました。

〇教室環境の工夫

材料置き場を工夫することで、自然な形で子供同士が作品を鑑賞できるようになります。ずっと机に向かって作業するよりも、他の作品に触れる機会が生まれ、表現の幅が広がることが期待されます。

〇水の量と色の工夫

色があまりにも薄い表現には「もう少し色をのせてみようか」「色が薄いとガラスみたいに見えるよね」と声をかけるなど、色の濃さや水の量を自分で調節できる促し方を教えていただきました。

〇導入や学習過程の工夫（２年「ふしぎなたまご」の実践より）

発想を広げるための導入や学習過程の工夫をご紹介いただいました。

・題材提示の工夫

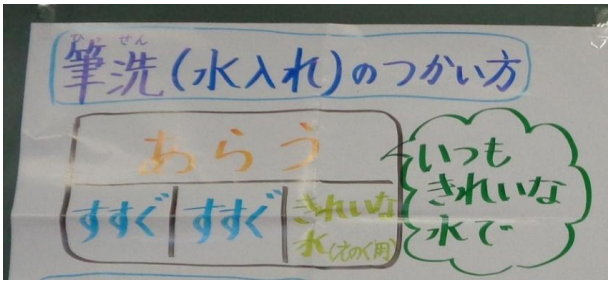
教師が「〇〇〇〇たまご」→「ふしぎなたまご」と順に提示することで、児童が「ふしぎ」について自由に想像し、色・形・模様などに工夫を発想する姿につながる。

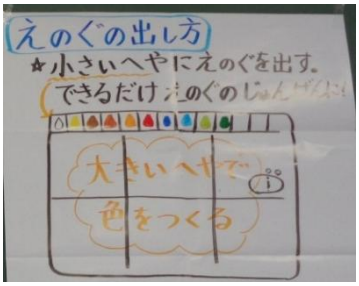
・構想を深める工夫（掲示）

教室にたまごを掲示し、「１週間あたためる」という設定をつくることで、「何がうまれるかな」と児童の中のイメージを膨らませる。

Ｑ１　水彩絵の具。初期指導は何をするか。

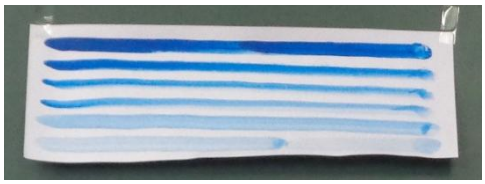
Ａ　まずは、道具の基本的な使い方を指導する。筆洗は、洗う・すすぐ場所を確認。汚れた水のまま使うと色が濁ることから、水が汚れたらいつでも替えるよう伝えている。パレットは、小さい部屋に絵の具を出すこと、大きい部屋で色をつくることを教える。大きい部屋が汚れたら、ティッシュや雑巾で拭くとよいことも伝える。





（当日掲示資料）

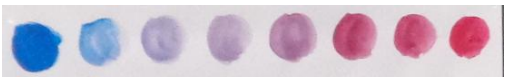
Ａ　次に、水の量の調節を１時間丁寧に指導する。水の量によって、色の濃さが変化することを学ぶ。水の調節は、筆洗のふちや雑巾で行うとよいことも併せて伝える。



Ａ　また、色の混ぜ方も１時間指導する。ここでは、少しずつ色を混ぜいいなと思う色をつくることを経験する。パレットの大きい部屋いっぱいを使って色を混ぜ切らないことを確認するとよい。

少しずつ

青と赤
少しずつ混ぜていく



青　　赤

Ｑ２　子供がうまく表現できないときは。

Ａ　題材にもよるが、４年「絵の具でゆめもよう」の場合は、水の量が大切。机間巡視の中で、「もっと水を多くするといいよ」と、ときには助言することもある。デジタル教科書を活用し、技法のイメージを活動前にもたせることも有効。

いろいろな技法１　試しながら、水の量の感覚をつかむ

技　法	方　法	水の量
デカルコマニー	折り目を付けた紙に絵の具をたっぷりと取り折り戻す	少ない
ドリッピング①(吹き絵)	豆粒のように紙の上に乗せた絵の具をストローを使って思いっきり吹く	多い
ドリッピング②(にじみ絵)	あらかじめ画用紙をたっぷりの水で濡らしたところに色を置く	多い

（講師資料）

図画工作科の基礎的な指導の在り方や、子供たちの思いを尊重した関わり方について学ぶ貴重な機会となりました。

受講者の感想

清河先生が今までの経験で気付かれたポイントや考え方なども教えていただき、すぐに授業に生かすことができる知識をたくさん知ることができてよかった。ぜひこのような機会を今後も各教科でたくさん設けていただきたい。
実際にやってみると水の量が少なかったり多すぎたりと難しかったです。実際の授業でも子どもが悩んでいることを実感でき、今日学んだことを今後の授業で生かしていきたいと思いました。
図画工作の時間にタブレットやデジタル教科書を使うことがあまりなかったが、今日の時間を通して、正しい道具の使い方を指導したり、作業の手順を指示したりするには、デジタル教科書を使い、正しく教えることが大切だと分かりました。口で説明するよりも実際にしているところを見せることで、理解速度も速くなるし、興味をもって取り組めると感じました。いきなり授業に入るのではなく、導入で使い方や、色の作り方を入念に練習していきたいです。
清河先生がもっておられる技術・知識の多さに感銘しました。網とブラシでの表現ができない私に、「水をたっぷり」と即座に助言いただきました。試してみると自分のイメージしていた表現ができ、「もう一度やってみたい」「違う方法も試したい」と気持ちがどんどん前向きになる感覚になりました。子供にもそのような感覚になってほしいと思いますし、そのためには机間巡視による見取り、子供への声かけができる自身の技能等が重要と感じました。
大変楽しく、かつ、勉強になりました。
一つ一つのことを自分が分かって指導することが、どれだけ大切かを改めて学びました。今回、たくさんのことを学ぶことができて、とても勉強になりました。ありがとうございました。
図工は子供にとってとても楽しい授業ですが、私からすると、どのように指導したらよいのだろう？子供が楽しかったらそれでよいのかな…？と悩むことがある教科でした。今回の研修では、子供を教材に惹きつける方法や活動中の指導の仕方について教えていただきました。子供に寄り添った方法で導入や指導を考えておられているなと思いました。私がすぐに実践できるかな？と不安なところはありますが、図工の授業ってこんな感じでいいのかな？というモヤモヤは無くなったので、今回教えていただいたことを基に、私なりに授業できたらなと思います。ありがとうございました。